

〈参考資料 2〉 さまざまな河道改修方法(案)

No.	改修方式	標準断面図 <small>改修メニュー</small>	手法	評価	
				長所	短所
1	堤防の完成化		高さや幅の不足している堤防を拡築する方法。	<ul style="list-style-type: none"> ・流下能力の確実な向上が期待できる ・河川環境への影響が極めて少ない ・自然環境への影響は無いまたは少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用地買収や家屋移転が生じる ・旧樋門の改築を要する
2	引き堤		現況堤防を移設して高水敷幅を確保する方法。	<ul style="list-style-type: none"> ・河道内に一切手をつけないため河道内の河川環境は保全される ・自然環境への影響は無いまたは少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・補償費や橋梁・樋門の撤去改築が必要であり事業費が莫大になる ・家屋の移転や橋梁取り付け道路の見直しが生じ社会的影響がきわめて大きい
3	低水路掘削		低水路河床を掘削し低水路水深を確保する方法。	<ul style="list-style-type: none"> ・掘削に対する洪水水位低減効果が最も高い効率的な手法 ・一般的な河道改修方法であり事業費が少ない ・掘削にともなう樹木伐採が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・縦断的な河床高の連続性を確保する必要があり、また既定計画より深い掘削を行った場合、既設護岸や既設樋門の基礎に影響するため増改築が必要となる場合がある ・生物の生息環境として重要とされる河畔帯や河畔林を保全できない手法であり、河床掘削による魚類などの生息環境に重要な瀬と淵が失われるなど、生態系への影響が懸念される ・低水路の拡幅により平常時の水深が低下し河床材料や河床形態の変化が想定されるため、魚類や底生生物の生息環境への影響が懸念される
4	低水路拡幅		低水路河岸を拡幅し、低水路幅を確保する方法。	<ul style="list-style-type: none"> ・掘削に対する洪水水位低減効果が最も高い効率的な手法 ・一般的な河道改修方法であり事業費が少ない ・河床は手をつけないため魚類などの生息環境に重要な瀬と淵については現況のまま保全できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・生息環境として重要な河畔帯や河畔林を保全できない手法のため、生態系への影響が大きい ・低水路の拡幅により平常時の水深が低下し河床材料や河床形態の変化が想定されるため、生物の生息環境への影響が懸念される
5	中水敷掘削		高水敷と低水路の間にその中間的な高さで河岸を掘削して中水敷を確保する方法。	<ul style="list-style-type: none"> ・掘削に対する洪水水位低減効果が最も高い手法 ・近年採用されることの多い河道改修方法であり事業費が少ない ・河床は手をつけないため魚類などの生息環境に重要な瀬と淵については現況のまま保全できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・生息環境として重要な河畔帯や河畔林を保全できない手法のため、生態系への影響が大きい ・低水路の拡幅により平常時の水深が低下し河床材料や河床形態の変化が想定されるため、生物の生息環境への影響が懸念される
6	高水敷掘削		高水敷全面を掘り下げて高水敷水深を確保する方法。	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的な手法であり事業費は少ない ・河床は手をつけないため魚類などの生息環境に重要な瀬と淵については現況のまま保全できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・生息環境として重要な河畔帯や河畔林を保全できない手法のため、生態系への影響が大きい ・低水路を拡大する方法に比べて掘削量に対する治水効果は小さい
7	堤防嵩上げ		現況堤防の幅や高さを拡築して、河道断面自体を拡大する方法。	<ul style="list-style-type: none"> ・河道内に一切手をつけないため河道内の河川環境は保全される 	<ul style="list-style-type: none"> ・被害ポテンシャルが増大するため超過洪水対策を必要とする ・補償費や橋梁・樋門の撤去改築が必要であり事業費が大きい ・家屋の移転や橋梁取り付け道路の見直しが生じ社会的影響がきわめて大きい